

小麦アカサビ病菌夏胞子の雪下越冬について

池 野 早 苗

(新潟県農業改良課)

小麦農林38号を昭和23年9月11日から10月16日までの間に8回ポットに播種し、11月11日に病菌を接種して年内に殆ど全個体が発病したものを実験に使用した。この年の根雪期間は1月5日から2月20日までの47日(最高積雪は1月17日、最高積雪量は80cm)であつたが、2月21日の解雪と同時に、播種期の異つた各ポットから孢子堆の形成された生葉、半枯死葉、枯葉を採集し、採集後1週間内に孢子堆中の夏胞子を取り出してVan Tighen氏セルによる懸濁培養法によつて孢子発芽の有無をしらべた。なお調査回数は9回、発芽試験に用いた定温器の温度は20~22°C、検鏡は定温器納入後15~24時間内に行つた。

調査の結果は第1表に示されている通り、生葉上か

ら採集したものが越冬歩合最も高く、半枯死葉がこれにつき、枯葉上のもは最も低かつた。

第1表 各種葉の夏胞子発芽率 (%)

調査回数	葉の種類		
	生葉	半枯死葉	枯葉
1	51.1	0	0
2	11.0	0.5	0
3	30.2	20.9	0
4	21.3	0.0	0.5
5	27.5	1.4	3.2
6	9.1	3.5	0
7	23.0	8.6	0
8	38.9	3.6	0
9	28.8	6.3	2.4
平均	29.2	5.1	0.7

大麦ウンモン(雲紋)病の葉に於ける発病について

池 屋 重 吉 ・ 田 村 実

(石川県農事試験場)

大麦ウンモン病の初期発病がオオムギの葉の熟度や葉の部分と関係があるかどうかを知るために調査を行つた。5万分の1反のワグネルポットにオオムギ会津5号を播種して草丈が約20cmになつた頃、孢子懸濁液を噴霧して20°Cの恒温接種箱に24時間入れ、後と

第1表 普通接種法と水平接種法による発病調査

(総病斑数)

葉の部位 (上より)	普通接種法			水平接種法		
	先	中	基	先	中	基
第1葉	0	0	0	0	0	0
第2葉	54	13	0	35	14	0
第3葉	4	0	0	3	10	2
第4葉	0	0	0	0	0	0
調査葉数	各葉位とも72葉			各葉位とも20葉		

りだして硝子室内に置いて病斑数を数えたところ、最新葉や老熟した葉には発病がなく、又発病した葉では先端の方に病斑が多かつた。しかしこの接種法では葉の先きに水滴がつき易く、もとの方は孢子懸濁液が付きにくいことも想像されるので、つきには葉を水平にして同様に接種した。それでも結果は前の場合と同様であつた。それらの結果は第1表に示す通りである。

第2表 自然接種による発病調査

(1葉当り病斑数)

調査日	3月17日			4月23日		
	先	中	基	先	中	基
第1葉	0.10	0.03	0.01	0	0	0
第2葉	1.08	0.69	0.13	0.10	0.04	0
第3葉	0.83	1.65	1.28	2.34	1.07	0.10
第4葉	0.33	2.66	1.33	2.76	3.07	2.32